



人間科学部 人間科学科

相原正道(あいはら まさみち) 教授

日本で唯一 2016&2020東京オリンピック・
パラリンピック招致活動を経験した研究者。
文部科学大臣表彰受賞者。

■ スポーツ教育やスポーツマネジメントを専門とし、行政のさまざまな有識者会議の委員を務める。

相原正道教授は、スポーツ教育やスポーツマネジメント、スポーツビジネスが専門。2016と2020の2度の東京オリンピック・パラリンピック招致活動を経験しています。東京五輪・パラリンピックを巡る汚職や談合事件については、世界的な基準におけるガバナンスの欠如であると指摘しています。

さらに、大阪市教育委員会「大阪市立学校における部活動のあり方に関する有識者会議」や「大阪市スポーツ振興施策検討有識者会議」座長として中長期戦略策定など行政のさまざまな有識者会議・審議会の委員を歴任しています。こうした経験を生かし、五輪のほかにもスポーツを巡る幅広いテーマについて論じてきました。テーマとしては、スポーツマンシップ、体罰、アンチドーピング、メンタル、トップアスリート育成、ツーリズム、ビッグデータ、障がい者、メディア、地域スポーツ、アーバンスポーツなどが挙げられます。

■ 体罰は「世界では終わった話。いまだに問題になる日本は遅れている」。

日本では現在「体育が嫌い」という子どもが増えています。相原教授は、背景として体育教育のあり方を挙げ、「スポーツは本来、自分で望んでやること。強制的に運動させられたら嫌いにもなるだろう」と指摘しています。

また、学校の部活動などで指導者の体罰がたびたび問題になります。相原教授は「世界では、体罰は刑罰の対象であり、指導に関する議論のテーマにもならない。日本は相当に遅れている。パリ五輪を控えるフランスを含めて国際的には性的虐待が問題となっていて、英国では法律による厳格な規定を設けている」と話しています。

■ 人気高まる「アーバンスポーツ」を研究対象に。NHKBS1の「スポヂカラ！」にもゲスト出演。

相原教授は近年、スケートボードや自転車競技のBMX、スポーツクライミング、ダンスなどの「アーバンスポーツ」に関心を持ち、ビジネスとしての体系化や価値の発見に取り組んでいます。アーバンスポーツを扱ったNHK BS1のスポーツ番組「スポヂカラ！」(MC・田村淳)にもゲスト出演しました。

アーバンスポーツに若者の人気が集まる理由について、相原教授は「コーチに教わるのではなく、みんなYouTubeを見て練習する。強制されないし、クールでかっこいい。そこが魅力だろう」と話し、「アーバンスポーツでは、公園を使うルールをみんなで作り、守らなくてはならない。そこに教育的価値があり、経済価値が生まれる」と説明しています。

相原正道教授 プロフィール 詳細はこちら⇒<http://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kyoinId=ymdygidoggy>

1971年生まれ、東京都出身。筑波大学大学院スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了。

職歴：電通パブリックリレーションズや東京ヤクルトスワローズF-PROJECTメンバーを経て、2015年に本学准教授に就任。2017年から現職。2016東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事業部門マネジャー、2020東京オリンピック・パラリンピック招致エグゼクティブ・プロデューサーを歴任したほか、大阪市教育委員会「大阪市立学校における部活動のあり方に関する有識者会議」や「大阪市スポーツ振興施策検討有識者会議座長」、「大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会」などの委員を務める。2021年4月、文部科学大臣表彰 科学技術分野 理解増進部門受賞。

主な著書：『スポーツマーケティング入門』（共著、2019）、『現代スポーツのエッセンス』（単著、2016）

所属学会：日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツマネジメント学会、日本広報学会など